

第4回 見附市立学校配置等検討委員会 会議録

日 時：令和6年9月27日(金) 午後6時30分

会 場：見附市役所 大会議室

出席委員：16人

遠藤委員、坂田委員、山田委員、梅本委員、井上委員、大橋委員、
三本委員、高井委員、目黒委員、武石委員、岡山委員、後藤委員、
今井委員、小山委員、小林委員、小尾委員

欠席委員：2人

保科委員、鈴木委員

事務局：渡邊教育長、近藤教育部長兼教育総務課長、佐藤学校教育課長

議事概要

1 開会 (18:30)

【事務局】

ただいまより、第4回見附市立学校配置等検討委員会を開会いたします。次第に沿って進めてまいります。

2 教育長あいさつ

【事務局】

次第2、開会にあたり、見附市教育委員会教育長の渡邊茂夫よりご挨拶申し上げます。

【渡邊教育長】

皆さんこんばんは。大変ご多用の中、本当にありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。

冒頭にまず、大変嬉しいデータが公表されましたので、皆様にもお伝えしたいと思っております。毎年、大東建託株式会社様が実施されている「まちの幸福度ランキング」というものがございますが、新潟県内30自治体におきまして、見附市が昨年の10位から急上昇しまして第2位ということになりました。幸福度第2位。

それから、「住み続けたい自治体ランキング」でも昨年度第4位でしたがこれも3位ということになりました。このことに係りましては、現在検討していただいております教育という分野につきましても非常に重要な項目となっているというふうを受け止めております。これからはしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

もう1点、一昨日、市議会9月定例会が終了いたしました。定例会では10名の議員の皆様方から一般質問がございましたが、そのうち3名の方から本検討委員会に関連する

ご質問を頂戴したところでございます。関心を持っていただいていることを大変嬉しく思っております。ここで議論していただいている内容は、見附市の未来に関わる非常に重要な問題ですので、市民の皆様ぜひ高い関心を持っていただきたいというふうに願っております。教育委員会といたしましては、今後さらに関心を高めていただけるよう取組を進めてまいりたいというふうに思っております。

さて、5月31日に第1回目を開催させていただいた本検討委員会も今回で4回目となりました。1回目、2回目では主に様々な情報提供をさせていただいて、前回第3回では4グループにわかれての協議をしていただきました。

今回のグループ協議ですが、前回の協議内容をベースに置きながら、さらに答申となる適正規模、適正配置の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策ということへの意識を高めていただきながら議論を進めていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

このことに関わりまして委員の皆様には3点確認やらお願いやらをさせていただきたいと思っております。

1点目です。どのような学校教育の場を目指すのかということであり、学校教育では児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、学び合い、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら、1人1人が資質能力を伸ばしていくことが重要であり、見附市としてそのような学びを実現できる学校をぜひつくっていききたいと、こんなふうに考えているところでございます。

ただ、一方では、前からお伝えしているとおおり、児童生徒1人1人の多様性に対応できる教育環境、これも大事にしていかなければならないことだというふうに受け止めております。

その両方を実現する教育環境を作るためにはどうしていけばいいか。見附市全体でどのように学校配置等を進めるかを考えることが大事なのではないかというふうに思っているところでございます。

2点目です。急激に少子化が進行している、そういう現状にあるということでございます。短期的には児童生徒数が増加する学校、あるいは横ばいの学校もありますが、10年後や、さらにその先といった中期的長期的には市内の全ての学校において児童数生徒数が大きく減少することがほぼ明らかになっております。

今年の中学校3年生は市内全体で344人ですが、小学校一年生は288人、そして令和5年度に生まれた子どもの数は218人でありました。結果として学級数が減り、学校の規模がこれまで以上に小さくなり、それに伴って教職員数も減少して、児童生徒に提供すべき学びの実現にとって様々な課題が出てくるのが想定されます。その中であって見附市の児童生徒が学ぶ場として目指していく小学校、そして中学校それぞれどんな姿を実現していけばいいか、このことを意識して議論していただければありがたいと思っております。

3 点目です。時間軸を意識してご議論をいただけるとありがたいなということです。目指していく学校教育の場を一気に実現するのか、それとも段階的に実現するのか、いろいろなことが考えられると思います。

見附市全体を見越した学校教育の場づくりは、2年後や3年後程度の短期間での実現をぜひ考えていってほしいということもあれば、今年生まれた子どもたちが小学校高学年や中学生になっている10年後や15年後程度で考えていくべきこと、さらには今後急激に進むであろう超少子化が予想される20年後や30年後といった長期的な時間軸で考えた方がいいこともあるのではないかなと思っております。

議論にあたりましては、短期的には、あるいは中期的、長期的には、そういった視点も持ちながらお考えいただければありがたいなというふうに思っております。

以上3点お話をさせていただきました。結びに、これからの検討委員会が有意義な議論となりますようお願いいたしまして、冒頭のご挨拶をさせていただきます。どうぞ本日もよろしくようお願いいたします。

3 議事

【事務局】

それでは、次第3の議事に移ります前に、出欠を報告いたします。

本日の委員会は、委員全18名のうち、現時点で16名の皆様からご出席をいただいております。過半数の出席に達しておりますので、委員会設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは議事に移ります。ここからの議事進行は遠藤委員長にお引き受けいただきます。それでは遠藤委員長よろしくようお願いいたします。

【委員長】

はい。皆さんお疲れ様です。

暑い夏が通り過ぎてしまいましたが、気がついてみるともう10月が目の前になってきました。

この回も前回やったときは7月末でしたので、大変暑かったのを覚えています。そこから約1年半以上経っています。私もこの年齢なので、かなり忘却曲線が激しいんですが、何を話したっけ、という感じですね。ちょっと記憶も定かでないところもあります。前回皆さんからこういう形でグループワークをしていただきながら、委員さん同士で話し合いをすることによってやっと少し和やかな雰囲気が出せたのではないかなというふうに思っています。

今回も前回同様の形でのグループワークですが、違うところはグループのメンバーが違うという点です。そして、先ほど教育長さんからも少しお話がありましたけれども、時間軸を意識した視点ですね。そんな提案をいただいています。

実を言うと私は教員をずっとやってきましたので思うんですが、学習の主体者である子どもには選挙権がありません。だから自分たちの考えを反映させようと思ったら、子どもたちの声を大人が意図的に聞く必要がありますし、それから子どもたちがどんなことを望んでいるか、きちんとそれを実現させていくという方向性も大事かというふうに思っています。

今日こうやって大人だけでこういう会を進めているわけですが、どこかではこのことについて、子どもたちはどう思っているんだろう、子どもたちは大人が考えるということに対してどういうふうな意見を持つんだろう、そんなこともこの検討を経ながら探っていく必要は当然あるかと思えます。そのことによってこれから生きるのは子どもたちですから、これからのことを考えながら私達も一緒になってこれからのために考えていく必要があるかなというふうに思っております。

ということで、前向きが長くなりましたが進めていきたいと思えます。

まず、今日の議事のはじめにですね、教育委員会の方から資料を作っていただいております。振り返り資料になります。その振り返り資料を用意していただいておりますので教育委員会事務局の方からですね、ぜひ説明をお願いしたいと思えます。

では、よろしくお願ひいたします。

【事務局】

それでは前回会議から少し時間が開いておりますので、前回までの振り返りについて説明させていただきます。

見附市学校配置等検討委員会の設置の背景についてです。見附市の児童生徒数は、現在の小学校8校、中学校4校になった昭和61年度の3,884人から令和6年度には1,838人と半数以下になっており、全国的に加速する少子化と施設の老朽化に伴う施設改修や時代に沿った生活様式の変化への対応といった教育課題に直面しています。

そこで、未来を担う児童生徒の学びの場である教育の質的充実を確保していくために、見附市の教育環境の形や学校のあり方を検討する時期に来ていることから、見附市の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策を幅広い見地から検討するため、見附市立小中学校配置等検討委員会を設置し、子どもたちにとって目指すべき教育環境の検討を開始することとしました。

委員の皆様には、見附市における市立学校の適正規模、適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策を検討いただきたいと思います。

学級数、児童生徒数が少なくなることの課題についてです。まず、学級数や教職員数が減ることで、学校運営上の問題が顕在化してきます。具体的には、「クラス替えができず人間関係が固定化する」、「クラス内で男女の偏りが生じる」、「運動会遠足、修学旅行等の集団行事の実施に制約が生じる」、「スポーツ実技や合唱合奏などが困難になる」、「授業で多様なものの考え方を引き出しにくくなる」、「配置される教職員が少なくなる

ため1人当たりの業務が増加し、児童生徒に関わる時間が取りにくくなる」、「特に中学校では免許外指導の教科が出ることで適正な指導に影響が出る」などの問題が指摘されております。

次に、学校施設の老朽化による課題についてです。老朽化が進むことで、学校施設の維持補修費は増加傾向にあります。市の学校施設は、昭和40年代後半から昭和60年代にかけて建築されたものが多く、老朽化が進んでおり、維持修繕費が増加しています。

耐震化、バリアフリー化など時代に合わせた施設管理が必要で、経費も必要となってきております。環境変化に応じた冷暖房設備、照明LED化、Wi-Fi環境整備などにも経費が必要となってきています。老朽化したプール施設など維持管理について検討すべき時期を迎えております。

また、見附市の中長期財政計画では、市の貯金にあたる財政調整基金が令和12年度に無くなることが見込まれ、財政改善の取組を加速していく必要があります。その中でも学校施設は公共施設の中に占める割合も多く、多額の改修費用が必要です。

次に、前回までの検討委員会における意見などについてです。前回のグループ討議の中では、「集約」として、「施設の共同化、有効利用」、「児童生徒増による教員増で先生の負担が軽減することで教育体制が改善」、「学区の見直し、弾力的運用」、「中学校の教育の質の確保」、「切磋琢磨する教育環境の必要性」、「一つになることで新たな取り組み」、「多様性」、また「子ども政策の充実により子育て世帯増に繋げる」、「移動手段の確保」、「地域の特性を生かした教育」、「小規模校のよさをアピール」、「特色を持たせてオープンスクールの活性化」、「小中一貫校」、「無関心層へアピールして地域全体として子育てする環境の構築」などの意見がありました。

次に、検討する際に認識しておくポイントについてです。前回のグループ討議の中で委員長からもありましたように、児童生徒の多様性に対応できる教育環境、児童生徒にとって公平で良好な教育環境に加えて、緊急性、重要性についても意識しながら検討をお願いしたいと思います。

最後に本日お配りした資料になりますが、委員から質問がありましたので、少し説明させていただきます。

答申書のイメージについて教えてほしい、という意見をいただきました。設置の背景のところでも説明させていただきましたが、見附市における市立小中学校の適正規模、適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策についてという諮問をいただいておりますので、答申としては現在の状況をどう考え、将来に向けてどのようにするかという基本的な考え方と、そのためには、いつ頃までに何をするのか、その際に配慮することは何かという実現に向けた方策を答申としてまとめたいと考えております。

具体的にどの学校を統合するとかということではなくて、いつ頃までにどういう教育環境を目指すか、例えば集約するのか、現状維持でいくのかという方向性を出していき

たいと思っております。

また、答申後の取組はどのようなのですか、という意見もいただきました。委員会のスケジュールをお示ししてありますが、答申をいただいた後に答申案を反映させた適正配置等方針案、計画案を教育委員会で作成いたします。

次に、教育委員会会議で内容について協議をします。教育委員会会議で承認いただいた後に、適正配置等方針案、計画案等を公表し、パブリックコメントや説明会、アンケート等を実施して正式な適正配置等方針、適正配置等計画として教育環境の整備に向けて動き出すこととなります。

具体的にいつぐらいになるのかということになりますが、答申案の内容によって、要する検討する時間が変わってきますので、今時点でいつということはありませんが、令和7年度内に公表したいというふうに考えております。

事務局からの説明は以上となります。

【委員長】

はい。ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、ご質問はありますでしょうか。いかがですか委員の皆さん。

どうぞ、委員。

【委員】

すいません、貴重なお時間を申し訳ありません。質問させていただいたのは私でした。

それで、端的にお聞きしたいことが3つぐらいあります。

1つは、上の方ですけれど、端的に学校の数とか、学級の数、これは出てこないんでしょうか。先生が委員長をされた加茂市の資料を拝見したところ、適正規模、適正配置という文言は入っていないんですけれど、加茂市ではしっかりと数字を出してもらえたと思いますので、その数字はここでは出されないのか、それとも出されるのはいつなのかということをお教えいただけますでしょうか。

【事務局】

ご質問にお答えいたします。

数を出すのかということになりますが、そこも含めてこの委員会での検討になると思っております。

その数がいくつになるのか、例えばもう少し幅を持たせた言い方になるのか、もしくは文言になるのか、適正規模に集約をするみたいな言い方になるのか、一つでいくというのはあんまりないんでしょうかね、数を減らして何校ぐらい、というところまで出せるかどうかというのは、具体的にもっと数字を見ていったりしないとなかなか厳しいとは思いますが、もしそういう具体的な数字が出せるようなところまで検討が進め

ば、そういう数字も出てくるかとは思いますが、そこまでいかないような文言での表現になる場合もあろうかと考えております。

【委員】

今日の予定がおありのところ申し訳ありませんが、この他にもちょっと書かせていただいたことは、今のように私と事務局がやり取りするだけっていうのは何か検討委員会っていう感じがしないんですよ。ですので、私が申し上げたことに「それ違うよ」とか、「そうかもしれませんね」といった他の委員さんの声があって話が組み上がっていくという方法もあるんじゃないかなと思うんですよ。多くの皆さんが、あんたそれ間違ってるっておっしゃるなら、はいわかりましたと引き下がりますけれど、そんなふうなちょっと積み上げていくようなイメージがあるといいなと思います。

それとお聞きしたいのは、スケジュールの下の方ですけど、前にも少し申し上げたことがあるような気もするんですが、これも加茂市の例ですけど、市民アンケートをされていました。大事なのは何かというと、1つは子ども条例や子ども基本法でしたっけ、それができて、子どもの声を聞いた方がいいっていうか、さっきおっしゃった聞かなきゃいけないという、そういう状況があるんじゃないかと思います。それをどこでされるのか。

それともう1つは、加茂市の例は、市民アンケートの中で先生方にもご意見を聞いていらっしやっただけですので、その子どもと先生のお考えをどこかの機会に聞く必要はあるのではないかなというのは今回お聞きして思ったことです。

以上です。

【事務局】

今ほどの委員の質問にお答えさせていただきます。

直接事務局との対応だけではなくて、他の委員さんとも一緒に協議したいということがまずひとつあったと思うんですが、まさしくそれが前回やられたようなグループ討議の中で、意見といいますか疑問に思ったこととか、私はこう思うっていうことが、まさしくグループ討議の中で行われたのではないのかなというふうに私は感じております。

それからですね、子どもの声ですとか教員さんにも聞いたかどうかということもあつたかと思うんですが、前回でしたか前々回でしたか、ちょっと説明させていただいたと思うんですが、教育委員会の方ではこの検討委員会の前にタウンミーティングを実施させていただいて直接子どもさんたちからお聞きしている場面もあります。

また、ふれあい懇談会とかですね、教員さんとの意見交換会みたいなのもあつてですね、教育委員会としては聞いてはいるんですね。ただ、検討委員会として聞きたい、ということが聞きたいっていうのは、そういうのが必要であれば、またそういうのも考えていきたいというふうに思っております。

【委員】

ちょっとかみ合わない感じなんですけれど、子どもの意見を聞いたとおっしゃいましたけれど、私の記憶ではタウンミーティングですよ、制服の意見が1つ、服装、あとトイレの意見が3つ、あとはタウンミーティングよかったねという意見だったように思います。なので、今回のテーマについてのお答えは見当たらなかったのではないかなというふうに思っています。

【事務局】

タウンミーティングの子ども回に実際に周りで聞いておられましたでしょうか。

【委員】

アンケートとか、報告書をいただいていますので、それを拝見しました。

【事務局】

子ども回のタウンミーティングはですね、まさしく5年後10年後の学校について考えてみようっていうものでして、いくつか載せさせていただいた意見の他にも、こういう学校がいいよねみたいな、曼荼羅チャートというんですけれども、いろんな意見があって、それについてもちょっとご紹介させていただいたような記憶があるんですけれども、それとは違うんでしょうか。

【委員】

はい、時間をとったらいけないので一旦これで結構です。すみません、ありがとうございます。

【委員長】

はい。また関連が出たら遠慮しないでご質問ください。

1つ付け加えておきます。私もタウンミーティングをコーディネートさせていただいた本人なので、これも私の方で子どもたちの考えをぜひ聞きたいということで、そういう機会を設定しました。小中学生に集まっただいて、今大活躍中の大谷翔平選手のキャリアパスポートという自分の将来設計を考えるシートですね。それを真似て作業しながら、どんな学校に通いたい、どんな学校だったらいいみたいな、そんなことを問いにしながら、自分たちで、そうなるためにはどういうことが必要かなということ、マスの中を埋めていくという作業ですね、そんなことをやりました。

私はそのときに、「皆さんがせっかく考えたんだから、今日来て見ていただいた皆さんには、そのことをよく覚えておいていただきながら皆さんの考えを声としてあげますよ」

という話はしたことは覚えています。そのことをちょっと付け加えます。

それから、委員から加茂市の例がでましたけど、たぶん加茂市の場合は諮問答申をした後でアンケートを取ったというふうに思っています。

私たちの、今この見附市の場合、諮問されたことに対してどう答えるかっていうことについて、今は私達の考えを傾注して回答をつくっていきたいというふうに思っています。というようなことで委員さんたちのこれからのまた前回も含めてですが、お考えが非常に大事になってきますので、よろしくお願いします。

その他ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

【委員】

今我々は2か月に1度集まって学ばせていただいているので何となくわかってきているんですけども、将来的にはパブコメということで、一般の方々は市のホームページから辿って、一般の方に質問を取るっていう感じだと思うんですけども、これって我々はわかるからこういうのが実際ですけど、一番大事なのは一般の方だと思うんですけど、どういうふうなやり方で分かりやすくこのパブコメを募ろうと思ってるんですか。

【事務局】

はい。パブリックコメントの実施方法ということですが、基本的にはまずホームページに一旦資料を上げます。もちろん閲覧できるように、市役所ですとかできれば公民館辺りにも資料を置いて見ていただくようにはしたいと思います。

それについての意見ですが、もちろん今 Web で回答することもできるようになっていますし、実際にお手紙なり FAX でもよろしいですけどもそういう様々な手段を通じて意見を集めたいと思っており、もちろん広報にもその旨を出して、できるだけ広く周知していきたいというふうに考えています。

【委員】

それはある程度そこでフォローして、ほぼ決まりかけた頃、いよいよ皆さんどうですか、ということですか。

【事務局】

ここの検討委員会で答申を作ってくださいまして、その方向性を反映した方針案、計画案を教育委員会で実際作ります。そのときにはもう少し具体的に。検討委員会では大まかな方向性になると思いますが、教育委員会が示す方針案とか計画案というのはもうちょっと具体的に個別の名前を挙げたりしたような案でパブリックコメントをかけるということになろうかと考えています。

【委員長】

委員よろしいでしょうか。はい。

今後の見通しを含めたご質問でした。その他ありましたらお願いします。よろしいですか。

－ 本日の議題 －

はい。それではこれからグループ協議に入っていきたいと思いますが、ちょっと画面切り替えてもらっていいですか。はい、ありがとうございました。

それでは、今ほどの質問にも正対しなきゃいけないと思いますが、このグループ協議の中で前回でも説明した内容ではありますが、確認をさらにさせていただきます。

諮問理由は何であったかということです。赤字で示してありますが、見附市立小中学校の目指すべき教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するための諮問事項、見附市における小中学校の適正規模、適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策、これを検討課題として探っていくことになります。

具体的には、現状、今頑張っている見附市の学校そして子どもたちが、現状のどんなことをよしとするかっていうのを大事にしながらも各委員が今後の解決課題として必要だと思うこと。背景にはさっきの少子化の問題もありますし、財政の問題もあるかもしれません。その解決のための方策について、前回同様、作業シートを活用してファシリテーションという手法をとりながらグループ協議を進めていきたいというふうに思います。

委員の考えが市として中学校なのか小学校なのかわかった方がいいということで、付箋の色も変えたいというふうに思っておりますので、一応付箋の色は黄色が中学校、ピンクが小学校というふうにさせていただけるとありがたいと思います。

後で整理するときどちらの校種、小学校なのか中学校なのかがわかるように作業シートに明示できるという良さがあると思います。

さて、検討委員会に託されている諮問理由は、さっき言った適正規模、適正配置等の考え方と実現に向けた方策なんですけど、ここで諮問理由で託されているリード文を読んだときの大事なポイントとして、少子化が背景にはありますが、何よりも「学校教育では児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら、児童生徒1人1人が資質能力を伸ばしていくことが重要であり、その一方で児童生徒1人1人の多様性に対応できる環境づくりも重要です」という表現をしていただきました。

当然これらを踏まえて検討しなきゃいけないわけですが、教育効果を上げることに貢献できるっていう方策であり手立てが必要であると思います。そんな点からアプローチしていきたいというふうに思います。

今日、こういうふうなシートになっています。前回と違うのは、重要度とか緊急度と

という言葉が入っているという点でございます。

当然前回出た意見と違うことを言わなきゃいけないっていうふうには思わないでください。ご自身の意見が、大事だと思うことを今日もまた述べていただければありがたいと思います。

前回のときに何を視点としたかをちょっと振り返ってみたいと思います。まず、視線設定で、横軸は主体者である児童生徒の多様性に対応できる教育環境、このために地域や学校事情が優先しているのか、子どもの活動が優先しているのかという問題があり、AグループからDグループまでそれぞれ検討してもらって、お手元の資料にあるようなところにたどり着いています。

これを通して教育効果ですね。特にその活性化という言葉で表現できるかもしれませんが、そこに繋がる適正規模、適正配置の考え方を見つけていきたいっていうのが狙いです。

はい。それから視点Bは何だったかという、縦の方ですね、児童生徒にとって公平で良好な教育環境、ITの活用であるとか、いじめ不登校対策であるとか、今日的な教育課題に対応したとか、そういったようなものを含めてということです。

このときに、見附市がこれまで頑張ってきて取り組んできて成果を上げて積み重ねてきた良さというものもあります。それを尊重するっていう視点とともに、もう学校も地域も社会も環境変化が進んできているので、それを考慮していくことが大事なんじゃないかという視点ですね。

それらを対比させながら、ここでも教育効果を生む適正規模、適正配置の考え方を見つけていきたいということでございました。

その中で、これは一般的に言われていることなんですが、適正規模についての考え方で、特に学校規模によるメリットデメリットを教育環境、指導体制、学校運営の3つの視点から検討した方がいいっていうことは言われていまして、このようなことがあるということを前回も紹介させていただきました。

それで今日、重要度、緊急度を入れたもう一つの視点ですが、これは縦横視点に基づく委員各自の考えはどのくらいの重要度を持っているのか、どのくらいの緊急度があるのか。これも自分自身の物差しで結構です。探っていただいてシートに付箋を貼っていただきたいということですね。それぞれ大事だ、あるいは少しこれについては急いで考えた方がいいというようなことについて、1つ1つの考えの重みづけを図りながらも、これも教育効果を生む適正規模、適正配置等の考え方を支える根拠を見つけていきたいというふうに思います。

そういったことで、協力いただけるとありがたいなと思っております。前回とメンバーが違うっていうのは、前回一緒に協議した人とは違った意見に委員として出会っていただきたいという願いもございます。

これからある程度時間をとります。今現在もうだいぶ時間を押しちゃいましたんで、

頑張って取り組んでいきたいとは思いますがこのようにしてください。

まず、これまでの会議や前回のグループ協議を受けて関心を持っていることや提案したいことを、各自が自分の考えを付箋に書いてください。そのときに小中学校の付箋の色ですね、気をつけていただけるとありがたいと思います。

それから1枚には必ず1問題意識ということでお願いします。

時間配分ですが、これも皆様の作業の進み具合を見ながら、前回同様、私の方でちょっと時間の操作をさせていただきたいと思っております。

それから一応、それが終わりましたら、今日も新しく出会うメンバーになりますので、自己紹介と簡単なお名前とプラスアルファぐらいの自己紹介で結構ですが、各自が自分の問題意識をどういうところを持っているかというのを、発表し合っていたいただきたいということです。

このときに各グループで代表者を決めて、進行役を務めていただけるとありがたいです。

発表し合った委員から順に作業シートに付箋を貼ってください。どこに貼ろうかなと迷うんですが、それは各自の判断で結構です。実は1回目の、私も詳しく見せてもらったんですが、もう皆さんから出された意見、本当に捨てがたい意見ばかりで、私自身もすごく勉強になりました。これ前回のこのことについては、終わりのところで時間があれば触れて、どういう傾向があったのかということについては、ちょっと私なりに今思っている所見を述べたいというふうに思っております。

それから、このときにそれぞれの委員の発表内容に対して質疑、意見交換を臨機にやってください。それも結構です。ここの時間はたっぷりとりたいと思います。

そしてその後ですが、それぞれグループでファシリテートしてくださる方を中心に、付箋の分布状況を話題にして分類整理して、できたら見出しなども含めて考えていただけるとありがたいなというふうに思っています。なおグループの世話役は、とりあえず最初は各教育委員会の事務局員が担当することになっておりますのでよろしくお願い致します。

前回は十分な時間が取れなかったんですが、グループワークの参加感想を発表し終わって、一応前段が終わる。そしてその後、結果発表をしてもらいますが、これも大体前回同様のイメージで結構でございます。これはまたそのときに説明させていただくことにしたいと思いますが、ぜひそんなことにこれからの時間を使っていただけるとありがたいなと思っております。

グループ協議の進め方について説明させていただきました。前はどんなこと言ったっけ、みたいなのはあるかもしれませんが、食い違っていて構いませんので安心して取り組んでください。ちょっと空気が滞っていますので、ぜひ皆さん活発な意見で温めてください。

では、これからよろしく申し上げます。時間をとりたいと思います。

- ここからグループワーク -

はい、ありがとうございます。協議の方をちょっとここで閉じていきたいと思えますので、5分ほど休憩します。その後結果発表をAグループから順に今日はお願いしたいと思えます。ABCDの順でお願いしたいと思えます。

5分程、休憩時間にします。20分から再開します。

- 20:15 ~ 20:20 休憩 -

【委員長】

それでは一旦前を見ていただけますでしょうか。簡単に発表の進め方を確認した上ですぐ発表に移りたいと思えますのでよろしくお願いします。

それでは、熱心なお話ありがとうございます。発表者はグループ代表以外の委員より選んでください。一応前回同様ですね、4分以内でお願いしたいと思えますし、もう前回うまかったんで、もう皆さんにおまかせしたいと思えますけれど、それぞれ脇のサイドのホワイトボードを使って資料を貼ってその上で皆さん集まっていたいただいてお互い見合うことにしましょう。

なお、もし補足したいことがあった場合にはそれぞれ、グループ内の委員が助けてあげてください。よろしくお願いします。多分今日は質問意見を受け取る時間が、時間の都合でないかもしれませんが一応ちょっと聞いてみたいと思っております。よろしくお願いします。

なお、発表のときに一応対象校種であるとか課題と捉えたこととか、その要因として考えられることとかだとか、わかりましたら出た意見の中で結構ですんで述べていただけると、骨子としてわかりやすいと思えます。よろしくお願いします。

グループ準備していただいているでしょうか。

皆さん見えないと思えますので、どうぞ立って移動して近くでお話を聞いてください。

(発表 Aグループ)

では、Aグループから発表させていただきます。

まず緊急と重要性大のところからいきます。まずひとくくりとして、「学校規模によらない教育環境を与えたい」ということで、運動会や体育祭の運動会の発表について、今まで最近の運動会や体育祭は半日で終わるので、昔は1日あったような感じで時間配分が大分あったということと、部活動の地域移行のあり方、そして各部活動の役割、地域移行できている、活動ができていない、部活動の差っていうのと、教科専門の教員配置ということ、先生が足りなくて専門以外の教科とか技術とかそういうのを担当して、

学校ごとに差が出ているっていう話が出ました。

それと、これと一緒に入っておりますけども、小規模校は児童数が少なくて修学旅行の方が心配ということで話が出ました。

それとあともう1つ、緊急度大のところ、「バスなど子どもたちの移動手段」ということで、冬の登校ですとか、学習用のバスがないとか、そういった移動手段を確保してほしいということで緊急の方で出させてもらいました。

そして重要度大ということで、資金とか予算っていうことでひとくくり意見が出ました。まず発端はやっぱり建物とか施設の老朽化ということで、何年かこうしてほしい、直してほしいという意見が出ているんですけども、なかなか直らないということで、先ほど出た財政調整基金ですか、それが6年後には無くなるということで、その基金でどこまでできるのかっていうことを知りたいということで、「資金、予算」ということで意見が出ました。

それでちょうど真ん中の「多様性」ということで、一つに言うと小学校から、小規模校から中学校の大規模校に行ったときに、生徒数が増えたことで、環境に対応できないんじゃないかということで、多様性ということでちょうど真ん中の方に問題ということで出しました。

それと、「地域の伝統や人との関わり方」ということで、小規模校とかは地域の行事とか地元の行事に出たりして、結びつきが深くて、そういったこともあって各学校がいろいろやっていると思うんですけども、そういうことを各学校で交流を深めてやったらいいのではないかと、ということで意見が出ました。

以上です。何か足りなかったら言ってください。いいですか。

(拍手)

【委員長】

はい、ありがとうございました。Aグループに拍手をお願いします。

はい、続いてBグループいいですか。委員よろしくをお願いします。

(発表 Bグループ)

では、Bグループから発表させていただきます。

まず、重要度と緊急度、そういう方から説明していきます。

「5年から10年後を見据えて」こんな意見が出ました。10年後、大規模校を1から3校、小規模校を1校にして特色あるようなふうにしていきたいなと思いました。財政的に厳しいならば、小規模校を1つにして、その分子どもが良い環境でできるイベントなどを体験をしたらどうかっていう意見が出ました。「思い切って学校を減らす」という考えが出ました。

あと、「魅力のある学校、行きたくなる学校」を今後、学校側に頑張ってもらってアピ

ールしていったらどうかという意見が出ました。

あと、使わなくなった校舎などに絵やアートを描いて何か見附のスポットみたいなものができないかなってという意見も出ました。

あと、「見附の良さ」としては、プレイラボみつけが成功していますので、他の地区にも広げてほしいなっていう意見が出ました。

あと、公民館が各学区などにあるので、公民館に子どもが毎日遊べるような部屋を作って、子どもたちに公民館をぜひ利用してもらいたいなという意見が出ました。

あと、各学区で米があるんですが、ぜひ一般の方に認知して面白いなっていうふうに認識してもらいたいなというふうに思いました。

「小規模校同士の交流」、実際に小規模校どうしが歩いて学校への道のりを歩けるツアーを開催してはどうかという意見が出ました。

あと、運動会なども交流して大規模校に負けないぐらいの盛り上がりができたらいいなという意見が出ました。

あとは重要度、重要事項なんですが、子どもの健康や安全が確保できる先生の数と施設を重要視してほしいという意見が出ました。

体育祭や文化祭など、これは中学校ですが、体育祭や文化祭などで子どもたちが後々、何々あってよかったなという経験をぜひしてほしいという意見が出ました。

あとは、「子どものための教育環境」なんですが、大規模校のクラス人数 1 クラス 30 人程度にして、あとは小規模校は大規模校も選べる、今のオープンスクールとは反対のシステムですが、それもぜひやってほしいという意見が出ました。

あと、重要度、緊急度ちょっと高めで「今すぐやってほしいこと」がここに出ています。みつば学校があるんですが、第二小だけ見附中学校で中学校区が変わる。せっかく三校で仲良くやっているのにちょっとかわいそうだなというふうになって、そこでちょっと見直しをしてもらいたいと思いました。

あと、子育てをしている家庭がありますが、若い人たちが住みやすいアパートなどを市の方でアピールしてほしいです。教育長が言いましたが、ランキングが上がっていることを、ぜひアピールして、あとはもっと見附が盛り上がるようアピールしてほしいです。

あと、コミュニティバスが走ってるのですが、見附の端から端まで走ってるわけじゃないんで、もう少し乗れる場所を増やしてぜひ乗れる子どもを増やして欲しいなという意見もありました。

あとは、コミュニティ紙が昔は見れたのですが、ちょっと見れなくなってしまってるので、ぜひ閲覧できるようにして他の学校のどういう状況とかを教えてもらえるようなシステムを復活してほしいなと思いました。

あとは中学校ですかね、部活動が少ないのもう少し選択肢が増えるといいなという意見が出ました。

以上で終わります。

【委員長】

はい、ありがとうございました。よろしいですか。はい、ありがとうございました。
(拍手)

それではCグループになります。あちら側になります。

(発表 Cグループ)

それでは、Cグループの発表をさせていただきます。Cグループはですね、4人それぞれ別の立場の方が集まりました。そういうふうに割り振りされているのかわかりませんが、小学校の校長先生、保護者の方、私みたいなコミュニティの会長、トータル的に統合的に見ていただける方、この4人がですね、それぞれバラバラにまとめたバラバラに書いたんですけども、くしくもある程度まとまったんですね。まとめていただいております。さすがに校長先生にきちんとあの、素晴らしくまとめていただきました。

5つぐらいあります。5つありまして、この「教育の質の向上」っていうのがあるのですが、これはですね子どもの活動が優先するとともに、当然その学校事情、ここにも関わってくるということで、こういう矢印を描いて、両方に関わるんだよっていうことを示してもらってます。

まずは教育の質の向上、これ校長先生から結構、意見出されたんですけど、やっぱりどうしてもですね、先ほど言われた子どもからの意見で設備が良くて綺麗な学校に行きたいとかですね、あるいはクラス替えが可能な学校に行きたいというような子どもたちのやっぱり意見もありますし、それにできるだけ応えるように教育の質の向上を図っていききたい。

教員同士の留学制度とかですね、そういうことをやって図っていくのはどうだろうか、あるいはその地域の専門家にですね、特化した形での質の向上の講義とか、そういうのをやっていただいたらいかがだろうかというような意見。

あと、やっぱりお金の話ですね。職員の数を増やしたい教育予算を増額したいというところがですね、やはり子どもたちのことを考えると、この質の向上設備の向上というのが避けて通れないところがあるのかな、緊急度大ではないかなっていうところがあります。

それから、「小規模校の個性化」が他のところでもいろいろ出てますけれども、やっぱり小規模校は小規模校のいいところはあるよね、地域と密着してるよね、みつば三校が交流してるよね。そういうやり方をですね、他の大規模校にもすすめてはどうか。あるいはそのオープンスクールをですね、ブロック内の選択制のオープンスクールにして、もう少し幅を広げていったらどうかなというような意見が出ました。

これも画期的な考え方、交換留学という意見も出ております。

ここの「小規模校の個性化」を見附の良さとしてですね、これからも維持するためには、どうしてもやっぱり今後、統合、再配置っていうのを考えたときに、バスがどうしても必要になるよね。スクールバスが先ほどどこかからも出ましたけども、見附市全体を網羅できるような形でのスクールバスで、特に冬場ですね、冬場に中学に通う子どもたちが、朝安心して行って、夕方安心して帰る。やっぱりそれは保護者としても願うべきことだし、それを実際に私の地域なんですけどもコミュニティワゴンを利用してですね、地域の方に、保護者でも何でもないんですけども、結構年配の方にお問い合わせですね、朝晩送り迎えを10人ぐらいでローテーションを組みながらやってもらってるというふうなケースもあります。

やっぱりスクールバスの、あるいはスクールワゴン、小規模でもいいんですけども、そういうのを市全体ですね、導入をして、そういうシステムをやっぱり作ってもらいたいというところがあります。

それと、「多様性」という言葉がいろいろ出てきます。多様性ってなんなんだろうというところからですね、まずスタートしてもいいんじゃないの、やっぱり不登校とかですね、いじめにも関わる問題でもありますんで、まずここの多様性に触れる、障害者の施設を訪問して、こういう方々もいるんだなっていう子どもたちが気づくべき内容、あるいは子どもたちがどういうことをやりたい、どういう個性があるかっていうのを多様性としてですね、学校側でそれを受け止められるためにどうすべきなのか、これは我々というよりも教育者の方の方が専門的だと思うんですけど、やっぱりその多様性っていうのにですね、もう一度多様性って何なんだろう、どういうふうに対応しなきゃいけないんだろうっていうところをもう一度見直す必要が今あるんじゃないかな。それにはですね、やっぱり今もう、子どもたち1人1人がパソコンを持っていますんで、そういう意味でのICTの活用とかですね、それが必要になるんじゃないかなというふうに思いますし、私は逆に、先生方そういうのについていけるのかなと、ICT拡大についていけるのか、それがちょっと心配なところがあります。

そんないろんなそれぞれの立場でもって、いろんな意見が出てきた中で、トータル的に見ると、総合的に向けた方向性っていうのがですね、いろいろありますよね。緩やかな小中一貫というのはできないだろうか。例えば今小と今中のような形でできないだろうか。

あるいは、その改良改修の年次計画はやっぱり必要だろう、ここでもってやったこういふところであって、やっぱり維持するためにやっぱり年次計画というのが必要になってくるだろうなというところがあります。

あるいは、国の基準で学級数などのたたき台を作ってもら。これはある程度指針が出ると、それに対してやりやすくなるというような考え方ができると思います。

そういう意味で、ちょっと僕は大きなくくりなんですけども、先を見据えた思考、理

想との想定を、ギャップをどう考えていくか、これがやっぱり大きなテーマになるのかなというふうに思いました。

以上です。

(拍手)

【委員長】

ありがとうございました。それではCグループの皆さん、補足意見ありますでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございました。

お待たせしました。Dグループお願いします。ここはどなたがご意見を。委員お願いします。

(発表 Dグループ)

Dグループの発表をさせていただきます。

まず、ちょっとすいません。本来のグループ協議の進め方と若干違ってはるんですけど、結構今までの会議で各問題点とか課題とかもずいぶん結構上げてきたし、他のグループの方もかなり上げていただいているので、それはちょっとなんていうか、具体的にどういうふうなところを目指せばいいかちょっとわかんないっていう話の中で、ちょっと番外編という形で、もうはなから具体的な案を出して、それに対して議論したら、ちょっと話をもっと盛り上がるんじゃないか、とかいうふうなことでやらせてもらいました。ちょっと私、喋るのが下手なんですけども、元々はこういった話題を出したのが私だったので我慢して聞いてください。

私は上北谷小学校で育って、今子どもたちが上北谷小学校なんで、小規模校がかなり気になって、現状オープンスクールイコール小規模ということで、3校あるんですけども、全部複式で、もう本来の小規模のメリットがなくなってきていて、ほとんどデメリットがいっぱいになってくるような形に感じてます。

それで、だったらもう3校もいらんんじゃないかということで、その結果、今より魅力のあるオープンスクールを1校つくって、複式にならないぐらいの生徒を集めるといので皆さんにご提案したら、結構意見を言っていて、同じように賛同いただいたりとか、あとはオープンスクール3校は多いんじゃないかというのもいただきましたし、あとはただ、コミュニティをどのように組み合わせるといのか、そもそもあったコミュニティの問題もありますし、地域が抱えている問題の違いかなというその考え方も大切かなという意見もありました。

あともう一つが、小中一貫校を市内に2つドーンと作って、プラスオープンスクールみたいなものも提唱させてもらいました。これは結構かなり強引な手法だと思うんですが、ただまとめると、学校意識を緩めていくっていう中で、やり方の一つとしてはいろ

いろあるんじゃないかなど。例えば学校を2つ作らなくても複数の今ある校舎を利用して、それを1つの学校って名乗る。例えばA校とB校の校舎を使って、例えばA校で1、3、5年が勉強して、B校で2、4、6年生が勉強するようにすれば人数の調整もききますし、いいんじゃないかなっていうことで、言ってみればこのキャンパス型の学校みたいな。A 小学校に何々校舎と何々校舎と何々校舎があったりとか、そういうパターンもあるんじゃないかなという意見になりました。

あと、これによることで専門教科の中学校間の交流ができると、1つの学校にしちゃえばできるわけです。「学校間の交流」とあるんですけど、これもここに加わることで、他の学校で2、3日授業の体験する交換学級とか、学校行事の講座を行う、修学旅行とか運動会を一緒にやれる、あと市外とも交流をしたりもあるかなと思ってます。

今、現状は部活動の共同実施とか、吹奏楽が3校県大会出場してるらしくて、これは市内の競い合いの効果によるものかなっていうところですよ。

ここやるにしても、結局は財政ということで、財政を面厚くしていただきたい。特に喫緊としては、スクールバス。これは何をやるにしても今現状も結構大変な思いを皆さんされていると思います。なんとかして、併せてやっていかなきゃいけないところかと思えます。

さっき番外編ということでこんな話を、何かをしたらどうなるみたいな話をしてたんだけど、例えば今後、そして私、例えば4校を何校にすると良いかなと話すとか、具体的なことをしてそれに対して反対意見を言ったり、いいところを言ったりとか、そういう話し方もアリなのかなと思いました。

ちょっと話し方が下手なんで、すいません。まとまりがないんですけど、補足をお願いできればと思いますがいかがでしょうか。

【委員長】

よろしいですか。はい、どうぞ。

(D グループ発表 続き)

すいません、ちょっと何を言おうかっていうのを今思い出したんで、少しお話してよろしいですか。

今後は少子化が進んだりすると、学校が絞られてくる可能性があるんで、必ず廃校が出てくる可能性があります。廃校の活用についても検討してみたらどうかと考えます。

ちょっと自分はキャンプが趣味だったりするんですけど、そんなのでだから、YouTube の中でたどり着いたのが廃校を活用したキャンプ場というのが実はあるそうです。教室も広いのでファミリーで泊まれたり、家庭科実習室、調理ができたり、グラウンドも広いですよ。そこで美味しいものを食べたり、そして夜は星空が綺麗だと。とても素敵です。そんなのがもし今後可能性があるならまた、見附にまた素敵な最高のキ

キャンプ場あるなら行ってみたいな、なんてことになる可能性もあります

そういった検討も、もしかしたらしたらいいかなって考えますし、探してたら今どうも千葉にあるそうなので、ちょっと自分も体験してみようかな、可能なら、と思っています。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。他にはございますか、質問ありますか、いかがですか。

はい。Dグループに拍手をお願いします。

(拍手)

【委員長】

みなさん一旦席にお戻りください。ありがとうございます。

新たな提案をいただいたりしていたんですが、私は今日4つのグループの発表を聞きながら、ふっと思ったことがあって、これは絶対今日のうちにお伝えしたいなと思ったんですけど、各学校でそれぞれコミュニティ協議会とかコミュニティスクールがあると思います。今ですね、協議会の話題にこういったようなことをちょっと入れてもらえないかってことですね。それをぜひともお伝えしたいなというふうには思いました。

いずれにしても、今日また出たものについてちょっと整理していきたいと思いますが、私もメモがたくさんあってこれをどういうふうに整理しようかなっていうふうに考えております。

それで多分ですけど、この検討委員会が結論として持っているのは、具体的に何をどうするっていうところではなくて、諮問理由にあったように基本的な考え方と方向性をこういうふうに考えて、そのために必要な観点はこういう点で、そのために必要な項目はこういうふうなことじゃないだろうかっていう、そういうところに落ち着いていくんじゃないかなというふうに思ってます。

具体的に更に進めてプランを作っていくのは、その先の、今度はこの検討委員会ではなくて、別なところでその協議に入っていくということになるんだろうというふうに私自身は捉えていました。しかし、今日ご意見をいただいたように、検討委員会の回答っていうのは、諮問への正対であるわけなんですけど、具体をイメージするために必要ならば例として提起することはできるというふうに思っています。そういうふうにちょっと受け止めていただけるとありがたいなと思います。

それでは、今日出たご意見の整理はまた次回にさせていただくことにして、前回ですね、事務局の方で整理していただいたものがあるので、私なりに感じたことをお話して今日のファシリテートの振り返りとしていたいと思うんですが、前回この話題で皆さんからいただいたときにAグループ、中学校の現状への懸念が指摘されていました。逆に、小学校は今ある活動が結構活発で良い活動だっていうふうに認識してるっていう傾向

がありました。反面、その認識とともに心配なことが多数指摘されているように思いました。というのが小学校ですね。

B グループですが、B グループは子どもたちのこれからを大切に考えた悩みが表出されていました。概観するとそういうことが私は一番印象的でありました。

その他ですね、部活動の大切さを訴えながらも、しかし課題が多いなっていうこととか、節々で見附市の良さという認識についてはもっていてくださっているなっていうふうに思いました。

C グループです。C グループでは現状をよしとしながらも、これからの学校づくりへの懸念が表出されていました。特に社会の変化とか地域学校の変化に即対応しなきゃいけないっていうことなんですけども、それは見附市でいう子育て環境の充実に繋がる課題なんじゃないかなというふうに捉えていくことができました。

なおですね、具体的に学校名としては、南中、今中、第二小のことが出ておりました。

それから、C グループでも小学校は特に今やってる活動は充実してるんじゃないかという意見が主流だったような気がします。

D グループです。D グループについては市の財政を心配しているということが強烈に指摘されていました。特に市の対応のこういうところを求めたいというようなことがですね、乗っかっていたように思いますし、学校の人気が出ると周りにファミリー層が集まるという、これもいわば学校で言うならば特色化の推進だと思うんですけど、そういったような面で今後のいろんな工夫の余地はあるというふうに捉えています。

それで、前回の A から D までが出されたもの意見、そして今日出された視点ですね。そういったようなものをもう 1 度、次回整理して皆さんに提示しながら一緒になって考えていただけるとありがたいなというふうに思ってます。

今日は特にオープンスクールの運用の工夫ですね。その話題が出ていたっていうことが複数ありましたし、教育の質に関わることの細かな指摘ってのは前回もあったわけですけど、やっぱり移動手段の確保というのといろんな物事がセットになってるんだなということは、各グループ共通していたように思います。

というようなことで、検討委員会の今後の時間はまだかかりますけれど、今後の方向性について、次回さらに深いところを検討していきたいというふうに思っておりますので、委員の皆さんからまたご意見をいただけるとありがたいと思います。

次回もまた皆さんを路頭に迷わせないようにしっかりと組み立てていきたいと思いますが、ご協力をお願いします。今日は本当に活発な意見をありがとうございました。

予定時間を大幅に裏切ってしまいまして、すいませんでした。次回また気をつけたいと思います。

傍聴の皆さん大変ありがとうございました。

はいそれでは一旦事務局の方にお返しいたします。事務局お願いします。

【事務局】

はい委員の皆さん大変ありがとうございました。

それでは次第の4、その他に移ります。事務局からの連絡事項となります。2点ございます。

1点目、皆様にお配りいたしました、第3回までの検討委員会の議事録を作成しました。会議の資料とともにホームページで公開をいたしております。皆様におかれましても改めて確認をいただいて、もしお気づきの点がありましたら連絡、事務局までお知らせいただければと思います。なお、今日のこの第4回目についても少しお時間いただきますが会議録出来上がり次第、公開する予定ですのでよろしくお願いいたします。

続いて2点目です。次回第5回目の委員会についてですが、10月29日火曜日、本日と同様18時30分からこちらの大会議室で開催いたします。詳細はまた改めてお知らせをいたします。ご都合をお繰り合わせのうえ、出席をお願いしたいと思っております。

はい事務局からの連絡は以上となります。皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、ではないようですので、以上をもちまして第4回見附市立学校配置等検討委員会を閉会いたします。

大変長時間ありがとうございました。お疲れ様でしたありがとうございました

- 21:00 終了 -